

どしやじんじゃ
土社神社

県指定有形文化財（建造物）

熊野大社には、本宮および末社が 27 あります。幸神社、大社神社、和光神社、八幡神社、菅原神社等と同じように土社神社も末社の一つです。

土社神社は、県有形文化財（建造物）として、昭和 52 年に指定を受けており、同じく県有形文化財（建造物）の二宮神社や市有形文化財（建造物）の三宮神社とともに、境内建物の中でも建築年代が古い建物です。

土社神社は見世棚造（※1）で、前流れの屋根が曲線形にのびて、その下が拝む所になっている小規模な社殿です。屋根は銅板葺で、二重になっている軒は、地になる軒と上の軒のすき間が等しい二軒ふたのきしげるたるき繁垂木です。

このような構造の土社神社と二宮神社は、極めて類似した建築であるといわれています。虹梁（※2）・大瓶束（※3）の形、頭貫（※4）の木鼻（※5）の形、手鉞（※6）の彫刻などの形から同時代に建てられたものではないかと推測されており、唐物の手法をとった室町時代末期の建築だろうとも言われています。しかしながら、二宮神社にあるウズラとオモダカかえるまたのかえるまた臺股（※7）は土社神社にはありません。

土社神社の呼び名は、寛永 4（1627）年には土社、宝暦 10（1760）年には不動堂、昭和初期には土佐神社、昭和 37 年には土佐神社、そして現在は土社神社と変化していますが、一般的には、昔からお不動さまとして親しみを込めて称される小さなほこら祠です。



▲熊野大社の階段登り口にある土社神社とその構造



※1＝階段がなく、柱と柱の間がひとつの小型の社殿。

※2＝梁の一種。

※3＝端が細くすぼまっている短い柱。

※4＝柱をくり抜いて組み込んだ横材。

※5＝頭貫の柱から出ている部分。

※6＝柱と梁などの間に設けられ、加重をスムーズに伝えるもの。

※7＝梁や頭貫の上にある荷重を支える部分。

南陽市文化財保護審議委員 前田みゆき
平成 28 年 2 月 1 日号 市報なんよう掲載